



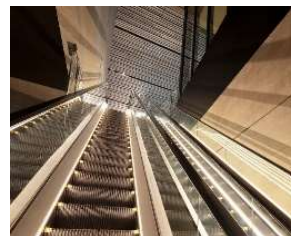
Oasisの臨時株主総会招集請求に係る主張に対する 当社見解について

2023年1月20日

フジテック株式会社
(東証プライム : 6406)



FUJITEC



平素より当社に温かいご支援を賜りありがとうございます。

フジテックは2023年2月9日で創業 **75** 周年を迎えます。

これまで当社の経営を支えてくださってきた全ステークホルダーの皆様感謝を申し上げるとともに、引き続きのご支持を頂きたく、本資料のご査収を何卒よろしくお願い申し上げます。

はじめに

今般は、特定の株主様とのエンゲージメントに端を発する当社の事業戦略やガバナンス体制に係る様々な疑義、及びこれに係る各種報道等により、株主の皆様にはご心配をおかけしておりまして誠に申し訳ございません

Oasis Japan Strategic Fund Ltd.（以下「Oasis」といいます。）からこの度、①2022年6月開催の定時株主総会で選任されたばかりの当社社外取締役6名の解任、②Oasisの提案する社外取締役候補6名*の選任、及び、③社外取締役等に適用される株価連動型インセンティブの導入等を実現するべく、臨時株主総会の招集請求がされました

当社は今まで、Oasisに限らず、株主の皆様からのご指摘については、真摯に受け止め、改善すべきは改善し、企業価値の向上を図る行動が重要と考え、Oasisの主張や広報活動に対し積極的な反論を控えておりました。

しかし、臨時株主総会招集請求を受け、株主の皆様の利益を守るために、本書面をもってOasisの各種主張に対する当社見解を公表いたします

* 2名の候補者が辞退し、1名が追加された為7名から6名に修正された

はじめに(2)

当社は以下の理由を背景に、Oasisに対して様々な疑念を抱いております

- Oasis及びOasisの最高投資責任者であるSeth Fischer氏は、2011年に日本航空株式に係る相場操縦疑惑により、証券取引等監視委員会と香港証券先物委員会（SFC）の協力の下で処分（当時、個人への制裁金として最高水準となるHKD7,500,000*の制裁）**を受けたと報道されていた為
- Oasisによる当社に対する各種指摘事項（事業、ガバナンス体制、及び競合企業対比でのリターン）については、Oasisの調査不足による事実誤認、或いは、Oasisの恣意的なミスリードである為
- Oasisの当社に対する一部主張は、Oasisの他投資案件に照らすと一貫性に欠ける為
- Oasisの株主提案のプロセスや内容が極めて杜撰であった為

当社としましては、Oasisの株主提案にはいずれも反対しております

Oasisから指摘されている関連当事者取引については第三者委員会を設置し、現在も調査中であり、当社は第三者委員会の調査に全面的に協力しております

株主の皆様におかれましては、本書面をご確認の上、当社の継続的、且つ、健全な成長を今後とも末永くご支援頂きます様、何卒よろしくお願い致します

* 2023年1月11日時点のHKD/JPY為替レートを前提とすると、約1.3億円規模

** 出所： <https://www.fsa.go.jp/sesc/kouen/kouenkai/20120302/02.pdf>（20頁～）
https://www.fsa.go.jp/sesc/news/c_2011/2011/20110915-1.html

※ 本件に関する補足資料等については、当社HPよりご確認ください (<https://www.fujitec.co.jp/announcement/8473>)

本臨時株主総会の議案に対する当社意見

当社は Oasisの株主提案にはいずれも 反対 しております

		議案	内容	当社意見
1	会社提案 第1号議案	社外取締役2名選任の件	候補者2名を社外取締役として選任 ・ 岩崎 二郎 ・ 海部 美知	賛成
2	株主提案 第2号議案	社外取締役6名解任の件	現任社外取締役6名全員の解任 ・ 杉田 伸樹 ・ 山添 茂 ・ 遠藤 邦夫	反対
3	株主提案 第3号議案	社外取締役6名選任の件	候補者6名を社外取締役として選任（当初提案は候補者7名） ・ 浅見 明彦 ・ トーステン・ゲスナー（Torsten Gessner） ・ クラーク・グラニンジャー（Clark Graninger） ・ 海野 薫 ・ ライアン・ウィルソン（Ryan Wilson）	反対
4	株主提案 第4号議案	社外取締役の個人別の基本報酬額 決定の件	基本報酬を1,250万円とする	反対
5	株主提案 第5号議案	社外取締役に対する事後交付型 株式報酬の付与の件	株価条件を設定しない事後交付型株式報酬を付与する	反対
6	株主提案 第6号議案	社外取締役に対する 株価条件付事後交付型株式報酬の付与の件	株価条件付事後交付型株式報酬を付与する	反対
7	株主提案 第7号議案	取締役（社外取締役を除く）に対する 株価条件付事後交付型株式報酬の付与の件	株価条件付事後交付型株式報酬を付与する	反対

OASIS

1

フジテックの事業戦略の策定／執行には問題があり、
新中期経営計画も実現できない

2

フジテックのガバナンス体制に深刻な問題がある

3

これらの結果、フジテックの株主は競合企業対比で
十分なリターンを得ることができていない

4

こうした現状を改善する為にOasisが選定した新しい社外取締役候補によって
現社外取締役を入れ替え、インセンティブ設計も挺入れすべきである

当社がOasisの株主提案に反対する理由

FUJITEC

OASIS

FUJITEC

1

認識相違

フジテックの事業戦略の策定／執行には問題があり、
新中期経営計画も実現できない



当社認識と異なる

2

認識相違

フジテックのガバナンス体制に深刻な問題がある



当社認識と異なる

3

認識相違

これらの結果、フジテックの株主は競合企業対比で
十分なリターンを得ることができていない



当社認識と異なる

4

反対

こうした現状を改善する為にOasisが選定した新しい社外取締役候補
によって現社外取締役を入れ替え、インセンティブ設計も挺入れすべきである



懸念／疑義あり

目次

1. 事業戦略に対する指摘に対する当社見解
2. ガバナンス体制への指摘に対する当社見解
3. 競合企業対比リターンへの指摘に対する当社見解
4. 株主提案に対する当社見解
5. まとめ

1. 事業戦略に対する指摘に対する当社見解

Oasisの主張

フジテックの事業戦略の策定／執行には問題があり、新中期経営計画も実現できない



当社見解



**「有言実行」
の実績**

当社は過去の中期経営計画等で掲げた施策の着実な執行により、当該計画において定めた定量目標を概ね達成することができていることから、株主の皆様に対してコミットした目標を「有言実行」してきた実績を有しています



**主要財務指標
成長率で
競合他社を圧倒**

当社はこうした適切な事業戦略の策定と着実な施策の執行を通じ、競合企業を売上高／営業利益／EBITDA／純利益という主要な財務指標の成長率においてアウトパフォームしています



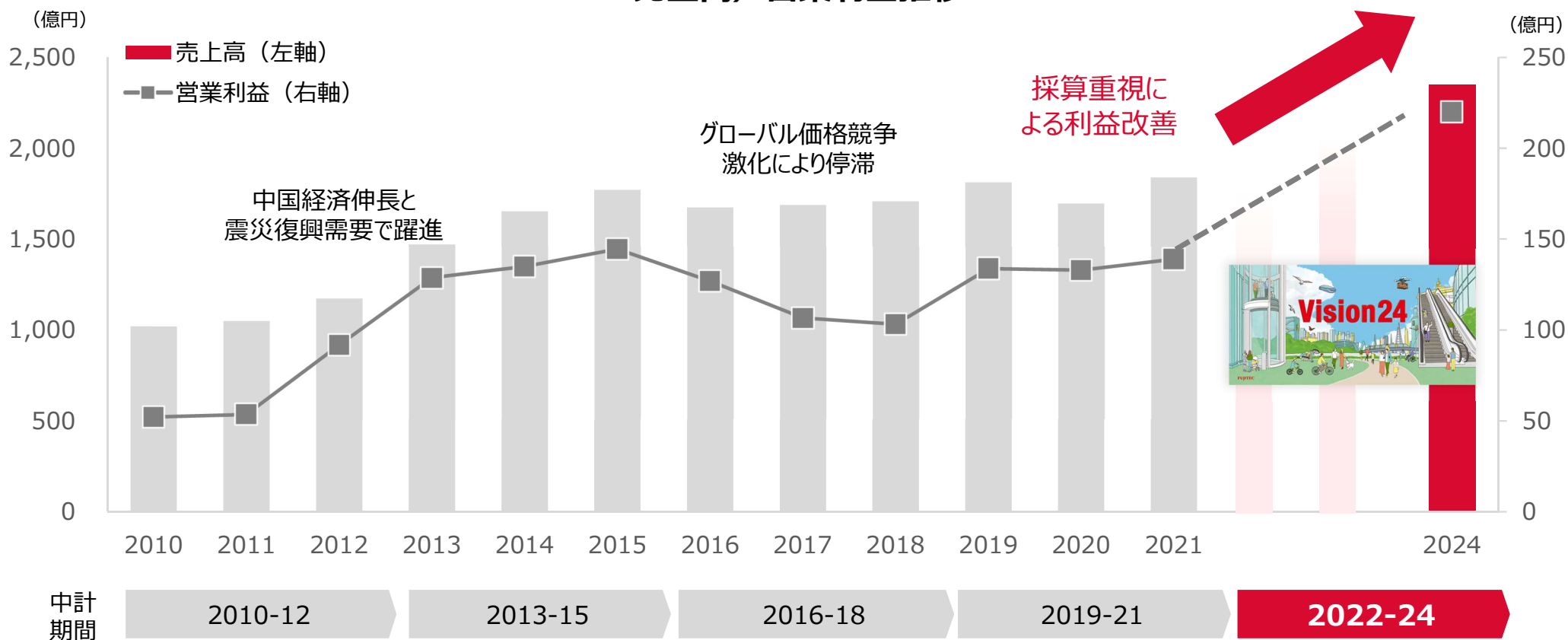
**資本市場から
高い評価を受けた
新中計**

加えて、株主の皆様からのご意見も参考に策定／刷新した新中期経営計画である「Vision 24」は、多くの投資家から高く評価頂いており、当社の更なる飛躍の為に、従前同様に「有言実行」していく所存です

当社の着実な成長の軌跡

- 当社は、適切な事業戦略の策定と着実な施策の執行、また、高い職業倫理に基づく製品／サービスの提供を通じ、創業以来、**お客様の信頼**を獲得してきており、業績は順調に拡大しております
- 今後は、2022年に公表した新中期経営計画である「Vision 24」を羅針盤とし、更なる飛躍を志向して参ります

売上高／営業利益推移



当社の過去の中期経営計画と「有言実行」の実績

- 以下の通り、中国経済の減速等を要因に日本企業全般で業績が落ち込んだ、2017年3月期から2019年3月期の3か年における中期経営計画を除くと、当社は中期経営計画においてコミットした目標数値は概ね達成してきた「有言実行」の実績を有しております

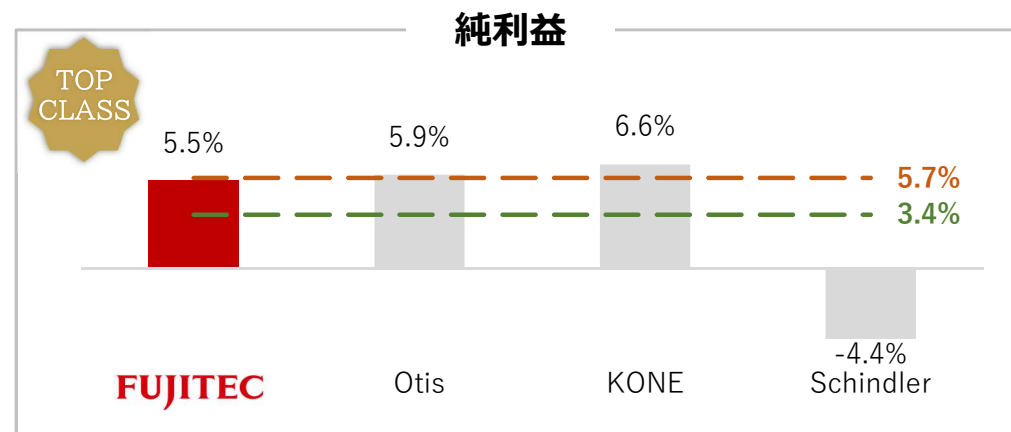
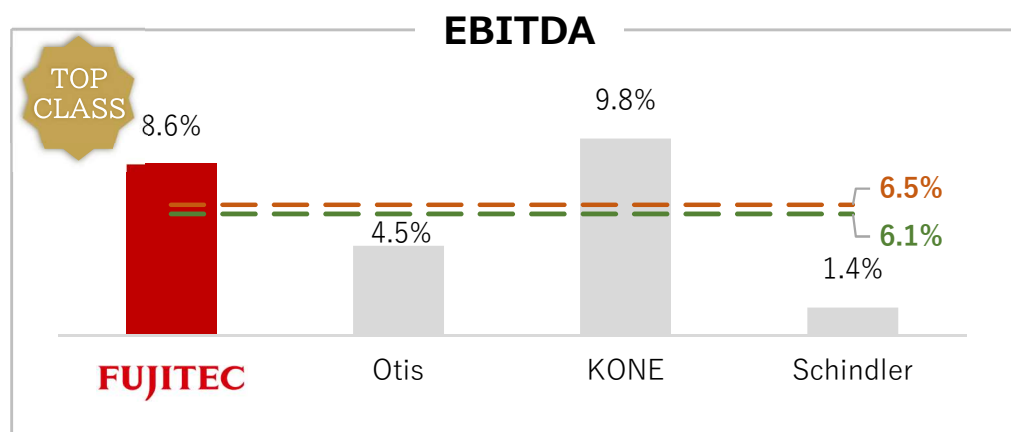
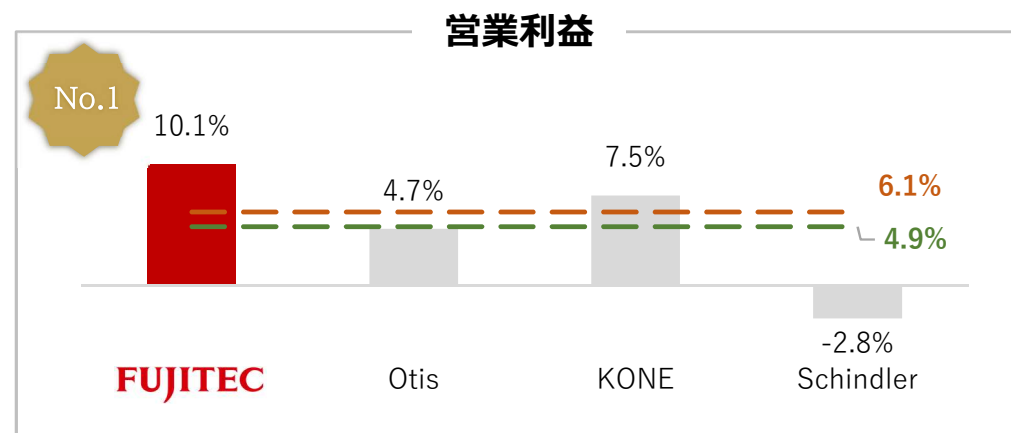
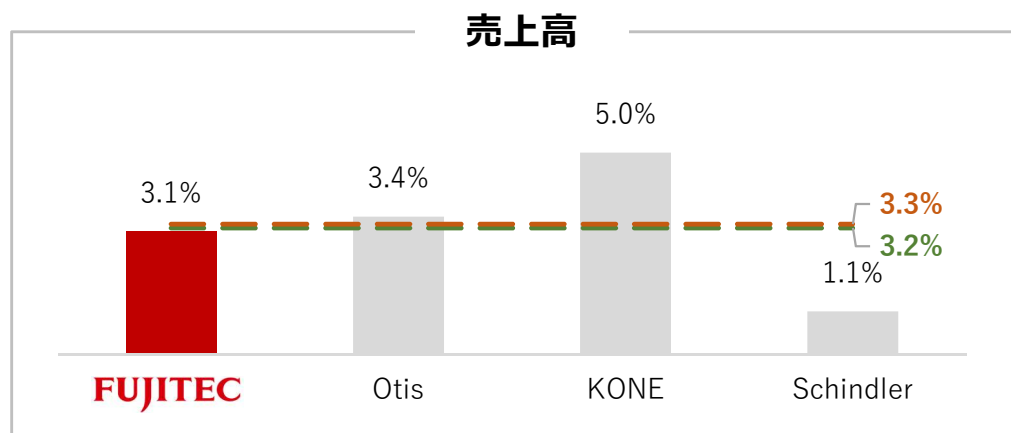
		2013年3月期	2016年3月期	2019年3月期*	2022年3月期
売上高	目標	1,200億円	1,600億円	2,000億円	1,800億円
	実績	1,175億円	1,771億円	1,708億円	1,870億円
	達成	▲	✓	×	✓
営業利益	目標	80億円	128億円	160億円	130億円
	実績	92億円	144億円	103億円	138億円
	達成	✓	✓	×	✓
営業利益率	目標	6.7%	8.0%	8.0%	7.2%
	実績	7.8%	8.2%	6.0%	7.4%
	達成	✓	✓	×	✓
ROE	目標	—	—	—	8.0%以上
	実績	—	—	—	9.1%
	達成	—	—	—	✓

* 上場会社849社集計で、2019年3月期は三期ぶり減益。

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO44697930S9A510C1MM8000/> (日経電子版 2019年5月13日)

平均成長率比較：過去3年間

- こうした経営努力の結果、当社の過去3年間における平均成長率は、売上高においては競合他社と伍す水準に留まったものの、営業利益やEBITDA、純利益においては競合比でもトップクラスの実績となっております
- Oasisが以前より指摘している営業利益については、過去3年・5年ともに、競合他社と比較しても高い成長率を実現しています



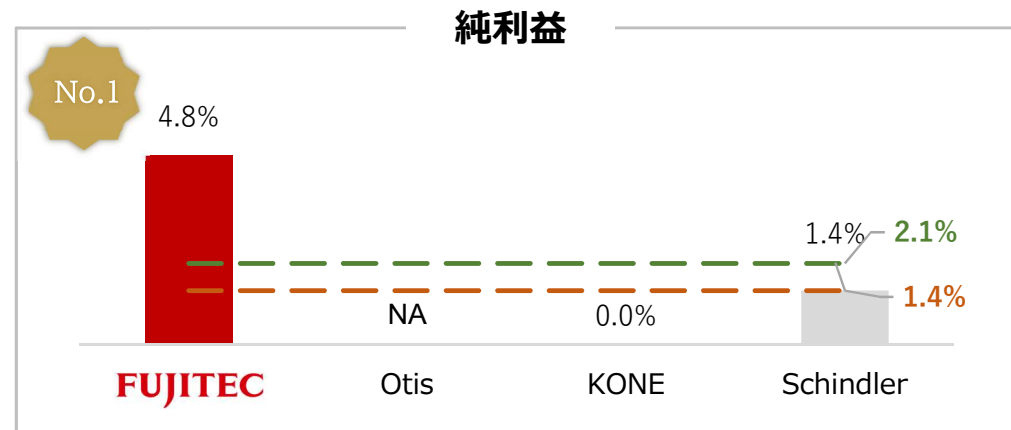
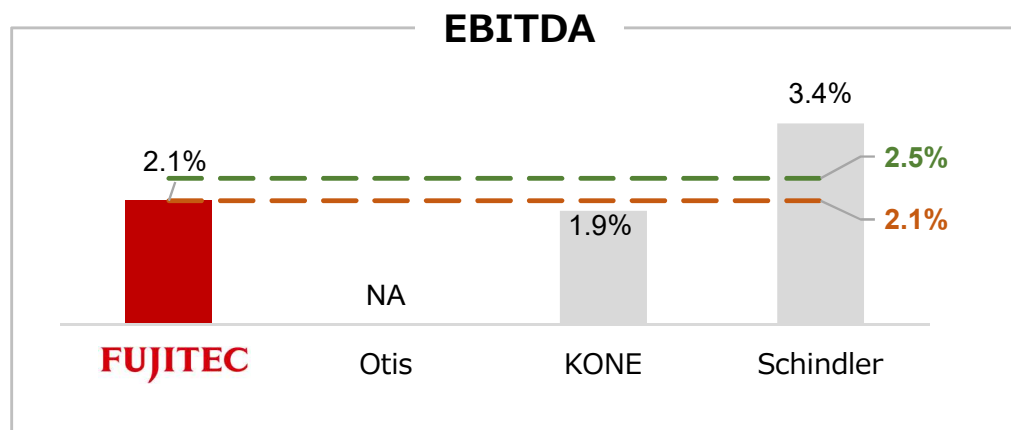
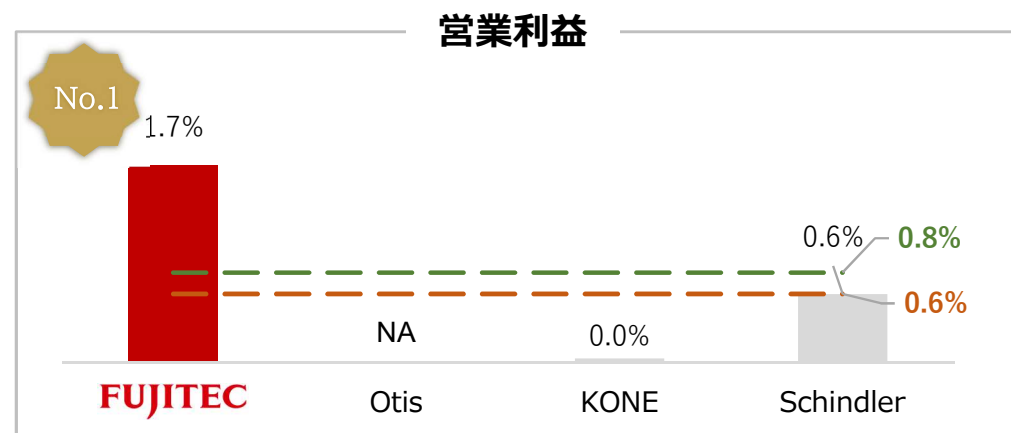
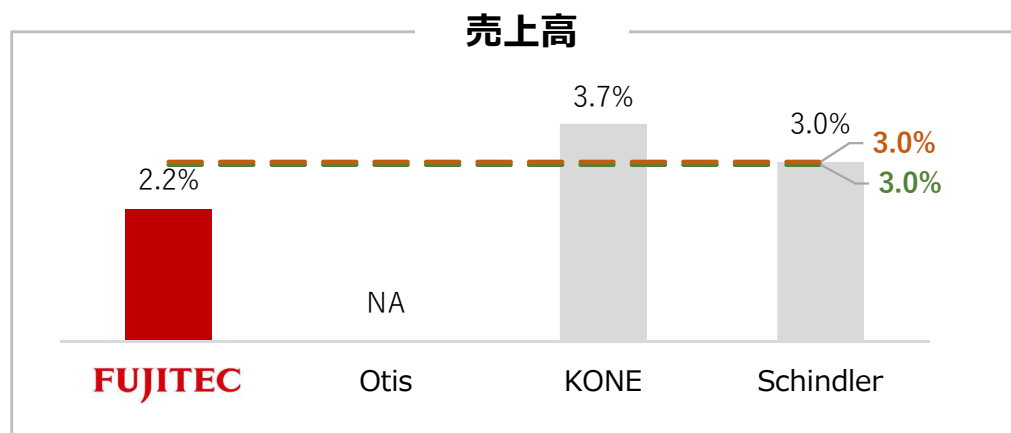
出所：会社開示書類

注：各社の2021年度から遡って平均成長率（CAGR）を計算（Otis、KONE、Schindlerは12月決算だが、現時点では2022年度の決算数値は発表されていない）

----- 平均値 - - - - - 中央値

平均成長率比較：過去5年間

- 当社の過去5年間における平均成長率は、売上高においては競合他社を若干下回るものの、EBITDAにおいては同等程度、また、営業利益及び純利益においては圧倒しております
- Oasisが以前より指摘している営業利益については、過去3年・5年ともに、競合他社と比較しても高い成長率を実現しています



出所：会社開示書類

注：各社の2021年度から遡って平均成長率（CAGR）を計算（Otis、KONE、Schindlerは12月決算だが、現時点では2022年度の決算数値は発表されていない）

----- 平均値 - - - - 中央値

当社の「Vision 24」におけるコミットメント

- 「Vision 24」においては、当社の事業戦略上の課題であり、Oasisを含めた一部の投資家の方々にご指摘頂いている①マージンの改善、及び、②資本政策／資本再投資については、相応に意欲的な目標を掲げておりますが、経営陣一同、本財務目標を実現するべく邁進していく所存でございます
- 過去の「有言実行」の実績にも照らし、投資家の皆様には是非とも当社経営陣による本計画の遂行をご期待／ご支援頂きたく存じます

2023年3月期実績と目標値のアップサイド

営業利益成長の施策		FUJITEC
全地域	コストダウン	<ul style="list-style-type: none"> 調達部品拡大に向けた品質向上とコスト削減 モダニゼーション機種の開発推進 据付・保守コスト削減に向けた機器、工法開発、人材育成 遠隔監視の性能向上とIT活用による保守コストの削減 生産能力の強化と稼働率向上（中国の生産技術、インドの生産能力の活用拡大）
日本	アフターマーケット事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> モダニゼーション拡大による収益性の向上 新設・モダニゼーション獲得による保守事業の拡大
中国	新設事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> 国内新設事業の拡大、輸出の強化
インド	新設事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> 機種のラインアップ拡充、周辺地域への輸出拡大
北米	新設事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> 機械室なし標準機投入による事業拡大 据付工法・技術向上による効率アップとコスト削減の推進
	アフターマーケット事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> ロープ式、油圧式エレベータのモダニゼーション拡大

Copyright 2022 Fujitec All Rights reserved 8

投資計画		FUJITEC
<ul style="list-style-type: none"> 成長フェーズへのギアチェンジを遂行すべく、積極的な設備投資を計画 		
事業成長投資		約100億円
<ul style="list-style-type: none"> 成長市場対応：新設事業成長に向けた中国・南アジアの需要拡大に対応する生産体制強化 モダニゼーション事業拡大：昇降機の分析施設や技術センターの整備 		
収益性向上投資		約80億円
<ul style="list-style-type: none"> 調達・製造におけるコストダウン：品質解析、技術観測と生産監視を目的とした、調達部品、技術解析センターの整備 IT活用促進：保守の効率化やコストダウン、新機能の開発に向けたAI・ITの導入拡大 グローバル人材育成：フィールドエンジニア/エンジニア・トレーニング施設の整備 		
ESG推進投資		約50億円
<ul style="list-style-type: none"> 災害対策強化：遠隔監視センターの増設、BCP対策強化 CO2削減・省エネ・環境対応：事業拠点の環境対策強化 		
設備・施設更新投資		約100億円
<ul style="list-style-type: none"> 生産設備：施設更新：既存設備や機械、工場向けの更新投資 		
設備投資総額（計画）		330億円

Copyright 2022 Fujitec All Rights reserved 9



	2022年3月期実績	2025年3月期目標	アップサイド
売上高	1,870億円	2,350億円	+25.7%
営業利益	138億円	220億円	+59.4%
営業利益率	7.4%	9.4%	+2.0pt
ROE	9.1%	12.0%	+2.9pt

投資家から評価されている「Vision 24」

- 尚、「Vision 24」は、追補版での修正内容等を含めて多くの国内外機関投資家の皆様から高く評価頂いております

2021年12月22日公開：初期版



初期版においては、主に最終年度の財務目標と、各セグメント別の内訳、セグメント別の事業戦略、及びハイレベルな投資計画／資本政策に係る方針が示された



機動的にアップデート

2022年3月1日公開：追補版



追補版においては、最終年度の財務目標との差分に係るウォーターフォール分析や、詳細な投資計画、詳細な資本政策に係る方針について追記された

海外著名ロングオンリーA社

“今回出した内容について非常にうれしく思っている。株主の言葉を聞いてくれた。特に今後3年間の明確な資本政策を評価したい。12月の公表から2か月でこのような詳細を出していただいたわけだが、チームの皆様の尽力とクオリティーの表れだと考えている。”

海外著名ロングオンリーB社

“「Vision24」の追補版は中期経営計画の詳細と資本政策およびコーポレート・ガバナンスの改善について開示されており、とても励みになった。また、今回は補足説明をしていただいたこと、改善に向けて取り組まれていること、実際改善していただいてコミットメントしていただいていること、非常にありがたく感謝申し上げます。”

海外著名ヘッジファンドC社

“御社として自走で経営的に改善していかれる状況に一気に舵を切ったと思っている。2020年12月に指名報酬委員会も設置され、戦略的方向性も作っていただいた。それぞれ事業エリアごとに収益の立て直しの方向性も書いていただいているので、我々としてはありがたいと思っている。”

海外著名ヘッジファンドD社

“自己株式取得とキャッシュフロー計画には努力、フジテックの近代化が示されている。このシフトは大したものだと思う。”

2. ガバナンス体制への指摘に対する当社見解

Oasisの主張

フジテックのガバナンス体制に深刻な問題がある



当社見解

✓ ガバナンス 先進企業の自負

当社はこれまでもガバナンス改革を継続して実施しており、**社外取締役比率や女性役員比率等の定量的に評価可能な点だけにおいても、日本におけるガバナンス先進企業と言えます**

✓ 関連当事者取引の 嫌疑に対する 適切な対応

Oasisの2022年5月公表資料において指摘されている創業家の関連当事者取引については、**2022年5月公表の西村あさひ法律事務所による当該取引に関する調査では、法的にも、企業統治上も問題ないという結論に至っております**
現在、株主の皆様をはじめとするステークホルダーのご意見を踏まえ、**当社から独立した第三者委員会による調査を行っており、当社は当該調査に全面的に協力しております**

✓ 更なるガバナンス 改革の推進

加えて、**更なるガバナンス体制強化の為に**、①2023年6月開催の定時株主総会において、更なるガバナンスの進化の為に提案（機関設計の変更）を付議することを予定しており、②これに先行して、**優れたスキルを有する2名の新社外取締役候補の選任を今般開催の臨時株主総会において提案させていただきます**

当社のガバナンス改革断行の歴史

- 当社は以下表の通り、継続的にガバナンス改革を断行してきた歴史がございます
- 並行して投資家の皆様のご意見を頂戴する為、IR/SR面談を積極的に実施しております（年間150件以上）

2006年4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役任期変更（2年⇒1年）
2015年11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「コーポレートガバナンス基本方針」を策定
2019年6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 社外取締役の2名増員（計5名）による取締役会の社外取締役比率の向上（43%⇒56%） ● 女性取締役1名を選任 ● スキル・マトリックスの開示
2021年2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 指名・報酬諮問委員会の設置（委員の過半数を独立社外取締役とし、委員長は独立社外取締役が務める）
2021年6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性取締役を1名増員し、計2名に（11%⇒22%） ● 譲渡制限付株式報酬制度の導入
2021年12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 新中期経営計画である「Vision 24」において、資本政策やガバナンス体制強化に対する施策／計画について開示
2022年3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 政策保有株式の縮減が進展しており、純資産額比率は2018年3月末時点の8.4%から2022年3月末時点では5.5%に低下（ISS／グラスルイスのいずれの基準も大幅に下回る）
2022年6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 社外取締役による取締役会議長就任 ● 社外取締役の2名増員（計6名）による取締役会の社外取締役比率の向上（56%⇒67%） ● 新任取締役の就任による取締役会の更なるスキルセット拡充 ● 事前警告型買収防衛策を廃止

当社の先進的なガバナンス体制

- TOPIX構成銘柄の社外取締役の取締役会に占める平均的な比率は約40%であり、当社の約**67%**は極めて高い水準となっています
(TOPIX構成銘柄約2,150社のうち、約320社のみが、過半数の社外取締役比率を有しています)
- 当社は女性取締役比率も約**22%**と非常に高く、TOPIX構成銘柄において上位**13.3%**に入ります
- 監査役会の**75%**は社外監査役が占めていることから、日本企業においては先進的なガバナンス体制を敷いていると言えるのではないかと考えております

当社の社外取締役比率



TOPIX構成銘柄

上位 **3.8%**

当社の女性取締役比率



TOPIX構成銘柄

上位 **13.3%**

当社の社外監査役比率



TOPIX構成銘柄*

上位 **29.1%**

出所：公表資料

* 監査役設置会社のみにて集計

大手議決権行使助言会社の基準は全てクリア

- こうした先進的なガバナンス体制を敷いていることから、大手議決権行使助言会社であるISSやグラスルイスが「議決権行使助言基準」において定めるガバナンス関連での主要論点については、当社は勿論いずれについても基準をクリアしている状況です

大手議決権行使助言会社の定める「議決権行使助言基準」におけるガバナンス関連での主要論点と当社現状の対比

		 ISSの反対基準	 GLASS LEWIS グラスルイスの反対基準
資本生産性（ROE等）	ISS/GLの基準クリア	過去5期平均5%未満で改善傾向にない	明確な定量基準はなし
政策保有株式の過度な保有	ISS/GLの基準クリア	純資産の20%以上の政策保有株式	純資産の10%以上の政策保有株式
社外取締役関連	ISS/GLの基準クリア	社外取締役比率が1/3未満、または社外取締役が2名未満	取締役会と監査役会を合わせて独立役員的人数が1/3未満に加え、独立社外取締役が2名未満
取締役会のダイバーシティ	ISS/GLの基準クリア	女性取締役が一人もない*	なし
社外監査役関連	ISS/GLの基準クリア	ISSの独立性基準を満たさない	独立役員的人数が1/3未満
買収防衛策	ISS/GLの基準クリア	買収防衛策（ポイズンピル）の導入及び更新	買収防衛策（ポイズンピル）の導入及び更新

出所：「2022年版 日本向け議決権行使助言基準」（ISS）、「2022 GUIDELINES AN OVERVIEW OF THE GLASS LEWIS APPROACH TO PROXY ADVICE」（グラスルイス）

* 2023年2月よりISSにて導入予定

形式面のみならず実質面での能力／経験も担保

- 形式基準のみならず、実質面での能力や経験においても、当社の独立社外取締役は、企業経営やコーポレートファイナンス、法務等の高いハードスキルと、日本を代表する上場企業の役員経験者で構成されていることから、国内最高レベルのプロフェッショナル集団を擁しているという自負がございます

当社の取締役の主な経歴及びスキル・マトリックス

企業経営の経験及び知見等（要点）

役職	主な経歴	独立性	企業経営／ 経営戦略	グローバル	テクノロジー	財務／ 会計	法務／コンプ ライアンス	リスク 管理	サステナ ビリティ	ガバナンス	M&A／ 資本市場
岡田	代表取締役 執行役員社長 指名・報酬諮問委員会	76年当社入社、12年取締役、20年代表取締役副社長 22年代表取締役社長（現任）	—	✓	✓	✓	✓		✓	✓	
浅野	代表取締役 専務執行役員	77年当社入社 17年取締役、フィールドエンジニアリング本部長（現任）	—	✓	✓					✓	
土畑	取締役 専務執行役員	84年当社入社 13年子会社フジテック アメリカ INC.副社長 21年財務本部長（現任）	—	✓	✓	✓				✓	
杉田	取締役 指名・報酬諮問委員会	77年経済企画庁採用、01年岐阜県理事 09年名古屋大学教授、15年立命館大学教授 等	✓	✓	✓			✓		✓	
山添	取締役、取締役会議長 指名・報酬諮問委員会	78年丸紅株式会社入社、18年同社副会長 等	✓	✓	✓	✓				✓	✓
遠藤	取締役	81年本田技研工業株式会社入社 13年同社常勤監査役 等	✓	✓	✓	✓				✓	
引頭	取締役	85年大和証券株式会社入社、16年株式会社大和総研専務理事 20年東京瓦斯株式会社社外取締役（現任） 21年味の素株式会社社外取締役（現任） 等	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓
三品	取締役	04年神戸大学大学院計営学研究科教授（現任）、 12年株式会社ニチレイ社外取締役、 19年株式会社エヌ・ティ・ティ・データアドバイザー・ボードメンバー 等	✓	✓	✓			✓	✓	✓	
大石	取締役	弁護士、株式会社PALTAC社外取締役（現任） 等	✓	✓			✓	✓		✓	
岩崎	取締役（候補）	74年東京電気化学工業株式会社（現TDK株式会社）入社 15年SBSホールディングス株式会社社外取締役（現任） 16年ルネサスエレクトロニクス株式会社社外取締役（現任）	✓	✓	✓		✓	✓		✓	✓
海部	取締役（候補）	20年テクマトリックス株式会社社外取締役（現任） 21年Harmonic Drive LLC社外取締役（現任）	✓	✓	✓					✓	

※現社外取締役についての詳細は補足資料の25頁～27頁を、社外取締役候補についての詳細は本資料27頁をご参照下さい。

補足資料 <https://www.fujitec.co.jp/announcement/8473>

各提案のスキル・マトリックス評価

- Oasisの提案に比べ、当社提案の社外取締役スキルマトリックスは総合的にバランスが良く、新規2名の候補により、更に強化されます
- Oasisの社外取締役候補については、上場会社の役員経験、また、上場会社のガバナンスに関わるスキルが大きく不足しており、日本の上場会社の取締役求められるスキルが圧倒的に不足しております

企業経営の経験及び知見等（要点）

FUJITEC

	独立性	上場会社 社外取締 役経験	企業経営 ／ 経営戦略	グローバル	テクノ ロジー	財務/ 会計	法務/ コンプ ライアンス	リスク 管理	サステナ ビリティ	ガバナンス	M&A/ 資本市場
杉田	✓	✓	✓	✓				✓		✓	
山添	✓	✓	✓	✓		✓				✓	✓
遠藤	✓	✓	✓	✓		✓				✓	
引頭	✓	✓	✓			✓	✓		✓	✓	✓
三品	✓	✓	✓	✓				✓	✓	✓	
大石	✓	✓	✓				✓	✓		✓	
岩崎	✓	✓	✓	✓			✓	✓		✓	✓
海部	✓	✓	✓	✓	✓					✓	

※現社外取締役についての詳細は補足資料の25頁～27頁を、社外取締役候補者についての詳細は本資料27頁をご参照下さい

補足資料 <https://www.fujitec.co.jp/announcement/8473>

OASIS

	独立性	上場会社 社外取締 役経験	企業経営 ／ 経営戦略	グローバル	テクノ ロジー	財務/ 会計	法務/ コンプ ライアンス	リスク 管理	サステナ ビリティ	ガバナンス	M&A/ 資本市場
浅見	✓		✓	✓	✓	✓		*3			✓
グラニンジャー	✓		✓	✓		✓	*4	*4		*4	✓
海野	✓			✓			✓*5	✓			
ウィルソン*1	*2		✓								
嶋田	✓			✓			✓*5	✓			
ゲスナー*1	*2		✓	✓							

※Oasis提案の社外取締役候補についての詳細は補足資料の33頁～35頁をご参照下さい
<https://www.fujitec.co.jp/announcement/8473>

- *1： ThyssenKruppグループにおける勤務経験が重なっており、同時期に同地域において経営幹部であったことからすると、両者のスキルセットは大きく重なっております
- *2： 現在、ファンド等に対してコンサルティングを行っていると言われており、当社の特定の株主に対してコンサルティングを行っていた場合には、中立性という観点から問題があると考えております
- *3： 浅見氏は、複数の訴訟を過去・現在抱えています
- *4： グラニンジャー氏は、過去、新生銀行の副社長を務めていたときに、子会社のガバナンス違反（行政処分）により、報酬カットを受けております
- *5： 海野氏、嶋田氏は2人も日本における法曹資格は無く、米国の法曹資格のみとなります

当社ガバナンス体制に対する第三者評価

- 結果として、当社は国内最大級のコーポレート・ガバナンスに関する網羅的なサーベイである、三井住友信託銀行の「ガバナンスサーベイ」の全ての項目において、同規模／同属性の上場企業を上回るスコアを獲得しております
- 同サーベイは、国内最大級のコーポレート・ガバナンスに関する網羅的な調査であり、日本におけるコーポレート・ガバナンス改革を牽引する、「伊藤レポート」でも有名な一橋大学CFO教育研究センター長伊藤邦雄氏監修の下で実施されております
- 同サーベイは、Oasisが当社のガバナンス体制が評価されていないとして例示した海外第三者機関による一方的な評価よりも遥かに信頼性に勝る詳細な分析／評価であると当社は考えております

「ガバナンスサーベイ®2022」における当社及び比較対象企業群の「ガバナンスINDEXスコア」

	FUJITEC	企業タイプI (298社)	企業タイプII (172社)	全社 (1,879社)
① サステナビリティ経営	3.2	2.4	2.4	1.4
② 取締役会の実効性	2.6	2.3	2.5	1.7
③ 社外取締役の活用	3.1	2.7	2.8	2.3
④ 役員指名の透明性	2.8	2.1	2.2	1.5
⑤ 役員報酬の透明性	2.4	2.4	2.7	1.7
⑥ 株主・投資家との対話	3.2	2.7	3.0	1.7

出所：「ガバナンスサーベイ®2022」（三井住友信託銀行株式会社）

注：「企業タイプI」は、時価総額1,000億円以上、5,000億円未満の企業群。「企業タイプII」は、外国人持株比率が30%以上の企業群。

関連当事者取引に係る嫌疑に対する当社見解

FUJITEC

- 提案株主が2022年5月公表資料において指摘した関連当事者取引に係る各種嫌疑については、2022年5月30日付「当社株主による主張に対する取締役会決議に関するお知らせ」においてお伝えしましたとおり、同日、当社取締役会としては、法的にも、企業統治上も問題ないという結論に至っております
- **尚、関連当事者取引については、当社から独立した第三者委員会にて調査が行われており、当社は当該第三者委員会の調査に全面的に協力しており、第三者委員会からの指摘がなされた場合には、真摯に対応いたします**



確認結果・対応状況

- 2022年5月公表の西村あさひ法律事務所による当該取引に関する調査によると、**法的にも、企業統治上も問題ない**
- 株主の皆様をはじめとするステークホルダーのご意見を踏まえて、**現在当社から独立した第三者委員会による調査中**

ガバナンス体制の更なる強化

- 前述の通り、当社は既に先進的なガバナンス体制を敷いており、且つ、Oasisが指摘する創業家が関与した関連当事者取引の嫌疑は事実誤認であるものの、新中期経営計画である「Vision 24」でも株主の皆様にお約束している通り、今後も更なるガバナンス体制の強化を図っていきます
- 尚、当社は2023年6月開催の定時株主総会において、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社といった他の機関設計の変更を含む更なるガバナンスの進化の為の提案を付議する予定ですが、臨時株主総会を開催するにあたり、先行して、優れたスキルを有する2名の新任社外取締役の選任を提案させていただきます
- 2名の追加選任をご承認頂けた場合、当社取締役会のスキル・マトリックスが充実し、更なるガバナンスの強化が見込まれます

「Vision 24」でお約束した施策

取締役会運営の実効性向上

社外取締役への情報提供に関する
サポート体制の強化

ステークホルダーコミュニケーションの拡充

政策保有株式に対する取り組み*

追加的な施策

NEW
更なるガバナンス強化を目的として、2名の
新任社外取締役候補を提案（本臨時株主総会）

NEW
監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社
といった他の機関設計の変更の提案（予定）
（2023年6月開催定時株主総会）

*政策保有株式推移（純資産額比率）：2018年3月の8.4%に対して2022年3月では5.5%に縮減（ISS／グラスルイスのいずれの基準も大幅に下回る）

会社提案の新任社外取締役候補者

- 以下、岩崎二郎氏と海部美知氏を当社は新任社外取締役候補として今般の臨時株主総会において当社より提案させていただきます
- 両名はそれぞれ、極めて優れた能力に加え、多様で豊富な実績や経験を有しており、当社の取締役会、ひいてはガバナンス体制を、より強くで堅牢なものにする上で最適な人物であると考えております

候補者番号1

いわさき じろう
岩崎二郎

生年月日 1945年12月6日

新任

社外

独立

略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況：

1974年3月 横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了
1974年4月 東京電気化学工業株式会社（現TDK株式会社）入社
1996年6月 同社取締役人事教育部長
1998年6月 同社常務取締役記録メディア事業本部長
2006年6月 同社取締役専務執行役員アドミニストレーショングループ・ジェネラルマネージャー
2008年3月 GCAサヴィアン株式会社（現フーリハン・ローキー株式会社）社外監査役
2009年6月 JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社（現株式会社JVCケンウッド）取締役執行役員常務コーポレート戦略部長
2011年3月 SBSホールディングス株式会社社外監査役
2011年4月 帝京大学経済学部経営学科教授
2015年3月 SBSホールディングス株式会社社外取締役（現任）
2016年3月 GCAサヴィアン株式会社（現フーリハン・ローキー株式会社）社外取締役（常勤監査等委員）
2016年6月 ルネサスエレクトロニクス株式会社社外取締役（現任）

社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要：

岩崎氏は、TDK株式会社の取締役専務執行役員をはじめとして上場会社の取締役を歴任され、豊富な経験と高い見識を有しているほか、複数の上場会社社外役員経験、また、大学教授としての経験もお持ちです。こうした経験、知見を活かし、当社の経営全般に有益な提言、助言をいただけるものと判断しています。

スキル

企業経営、グローバル、コンプライアンス、リスク管理、ガバナンス、M & A

候補者番号2

かいふ みち
海部美知

生年月日 1960年3月12日

新任

社外

独立

略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況：

1983年3月 一橋大学社会学部卒業
1983年4月 本田技研工業株式会社入社
1989年6月 スタンフォード大学ビジネス大学院（MBA）修了
1989年9月 日本電信電話株式会社入社
1996年5月 NextWave Telecom Inc.入社
1998年8月 ENOTECH Consulting, Inc. 設立、CEO（現任）
2020年2月 早稲田大学経営大学院非常勤講師
2020年6月 テクマトリックス株式会社社外取締役（現任）
2021年7月 Harmonic Drive LLC社外取締役（現任）
2021年9月 成蹊大学グローバル教育プログラムEAGLE客員教授（現任）

※ ビッグデータやシリコンバレーに関する著書あり

社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要：

海部氏は米国に居住しながら自身で起業したコンサルティング会社を経営し、日本とアメリカのIT産業及びベンチャー企業に関する、過去20年以上にわたる知見と経験に基づいた調査分析とアドバイスを提供しています。こうした経験により培われた豊かな見識に基づき、グローバルな視点、特にテクノロジー領域における有益な提言、助言を頂けるものと判断しています。

スキル

グローバル、IT・テクノロジー、ガバナンス

3. 競合企業対比リターンへの指摘に対する当社見解

Oasisの主張

これらの結果、フジテックの株主は競合企業対比で十分なリターンを得ることができていない



当社見解

✓ 競合企業を TSRで凌駕

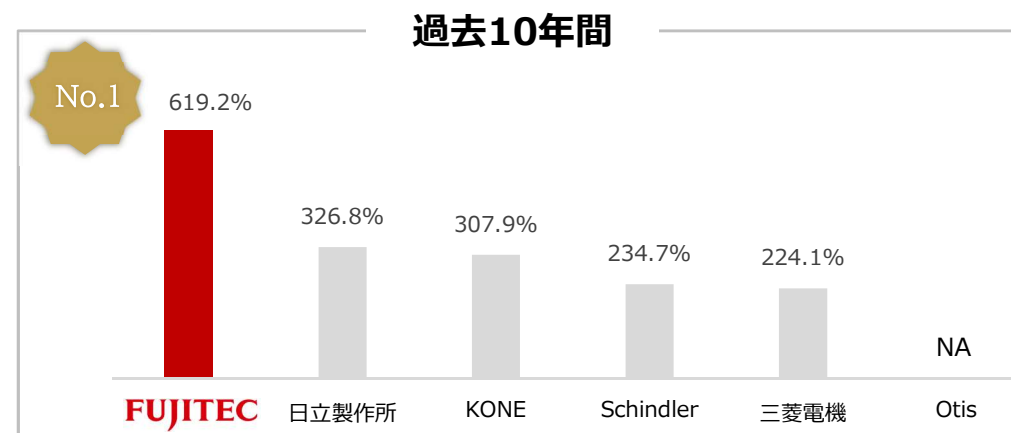
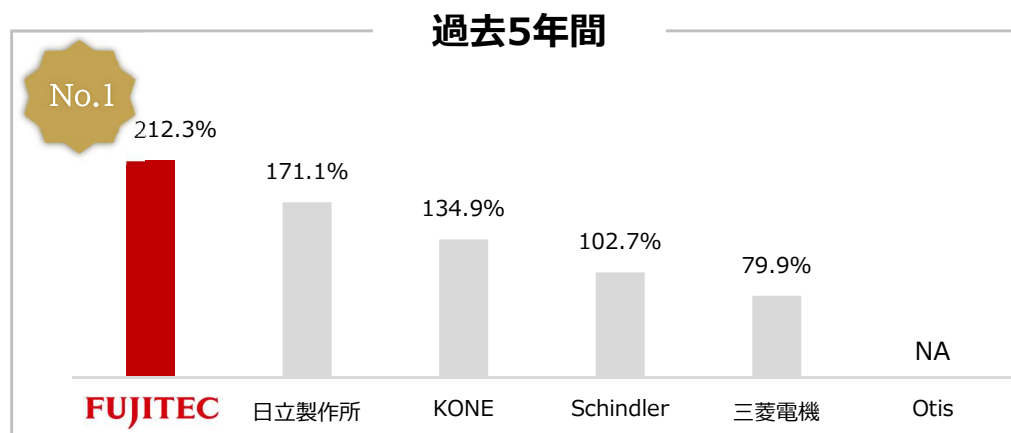
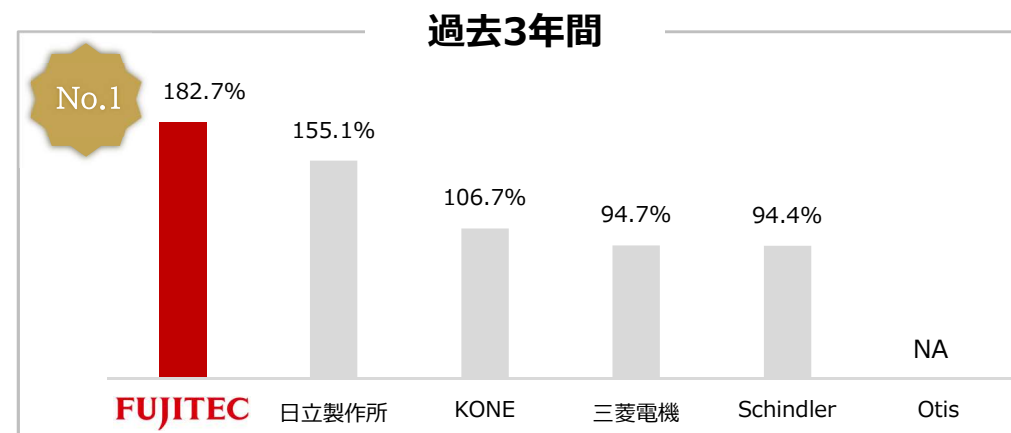
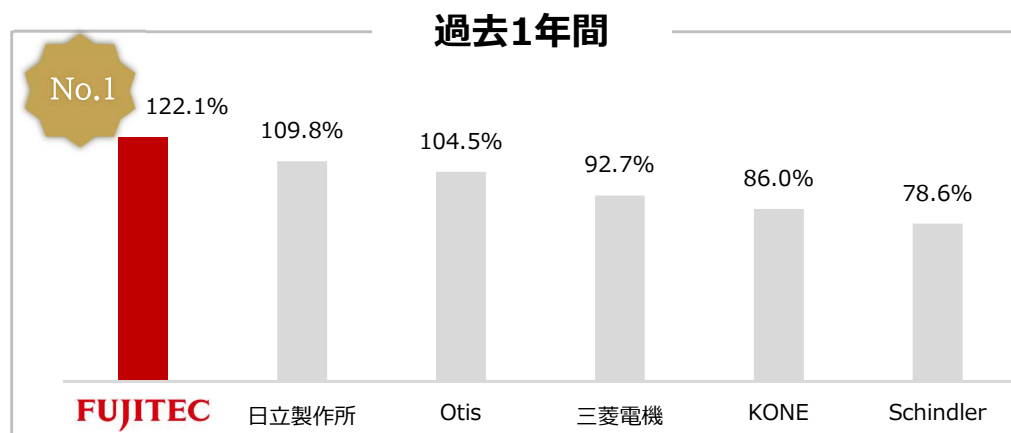
前述の通りの事業戦略／執行やガバナンス改革／強化等の経営努力の結果、**株主にとって最重要なリターンの指標でもあるTSR（株主総利回り）において、当社は過去1年間/3年間/5年間/10年間という全ての期間において、Oasisが当社より優れていると喧伝される競合企業の全てをアウトパフォームしております**

✓ TOPIX構成銘柄 トップクラスのTSR

- TSRについて追加的に付言すると、**当社は上述の全ての期間において、TOPIX（東証株価指数）を上回っているのみならず、TOPIX構成銘柄の上位25%に常に入っており、一定程度のリターンは株主の皆様にお返しすることができていると考えております**
- 配当性向においてもTOPIX構成銘柄の中で上位12.5%となっております

TSR比較：当社 vs. 競合企業

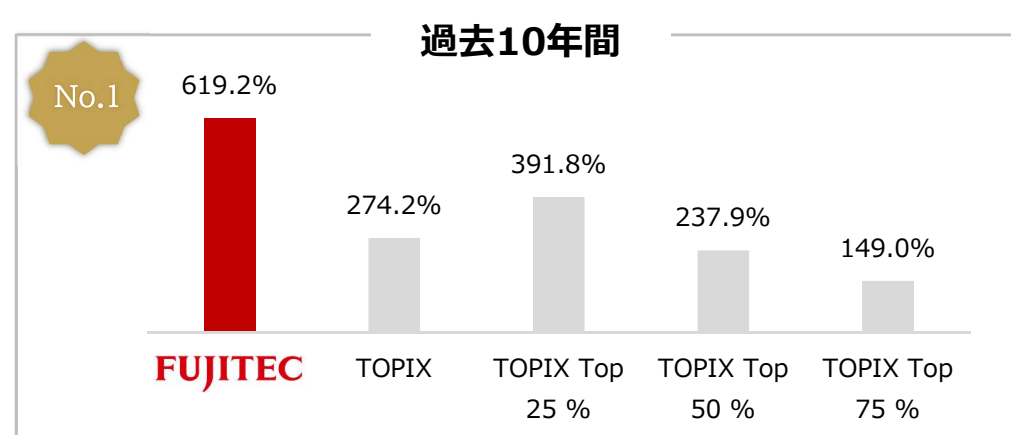
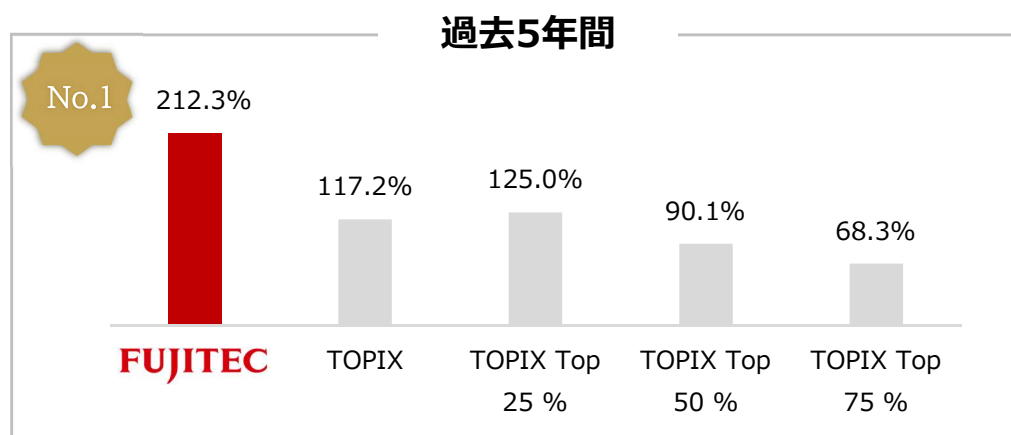
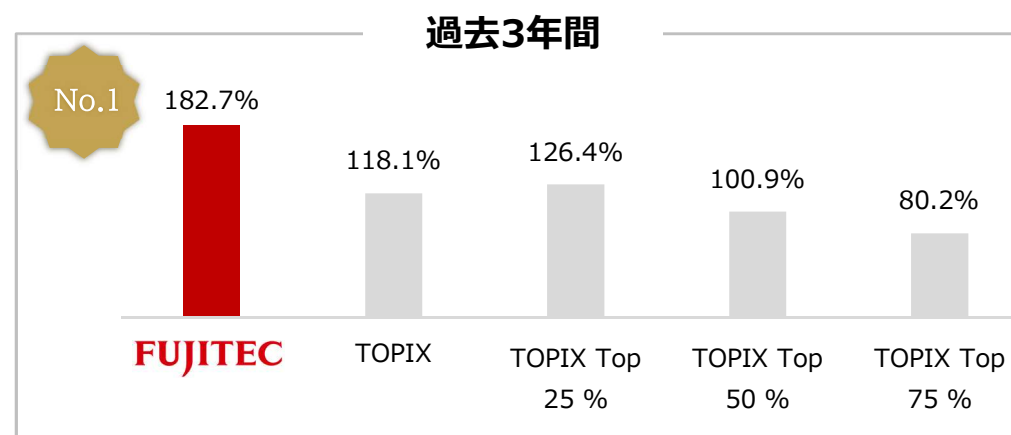
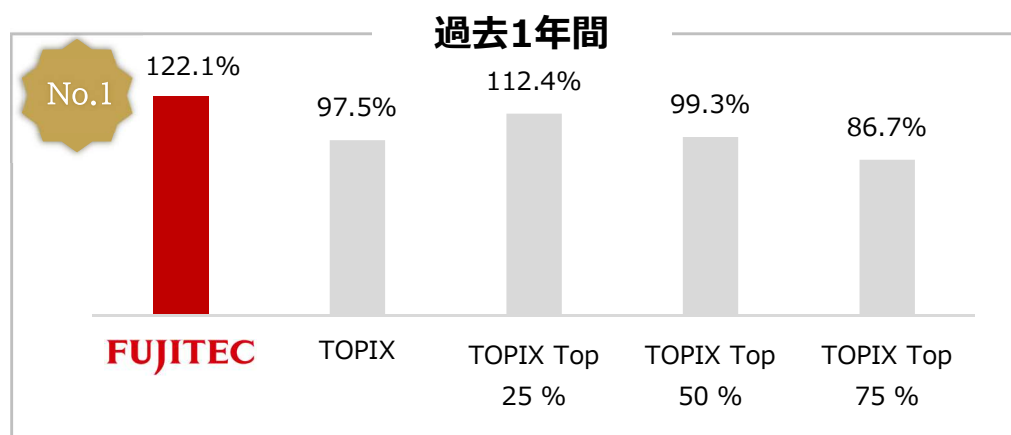
- 当社のTSR（株主総利回り）は、Oasisが公開資料で言及している当社競合企業であるOtis Worldwide Corporation、KONE Oyj、Schindler Holding、日立製作所、三菱電機を過去1年間／3年間／5年間／10年間のいずれの期間においてもアウトパフォームしています



出所：S&P Global Market Intelligence
 注：2022年12月末時点（Otisは2020年4月に上場）

TSR比較：当社 vs. TOPIX指数

- 当社のTSR（株主総利回り）は、TOPIX指数を過去1年間、3年間、5年間、10年間のいずれにおいても上回っている他、同指数の構成銘柄において、常に上位25%に入っています



出所：S&P Global Market Intelligence

注：2022年12月末時点

当社の過去10年間の株価パフォーマンス

FUJITEC

当社の株価は過去10年間で約5倍の上昇を記録しております
TOPIX、S&P500、並びに他社と比べて、株価は大きくアウトパフォームしております



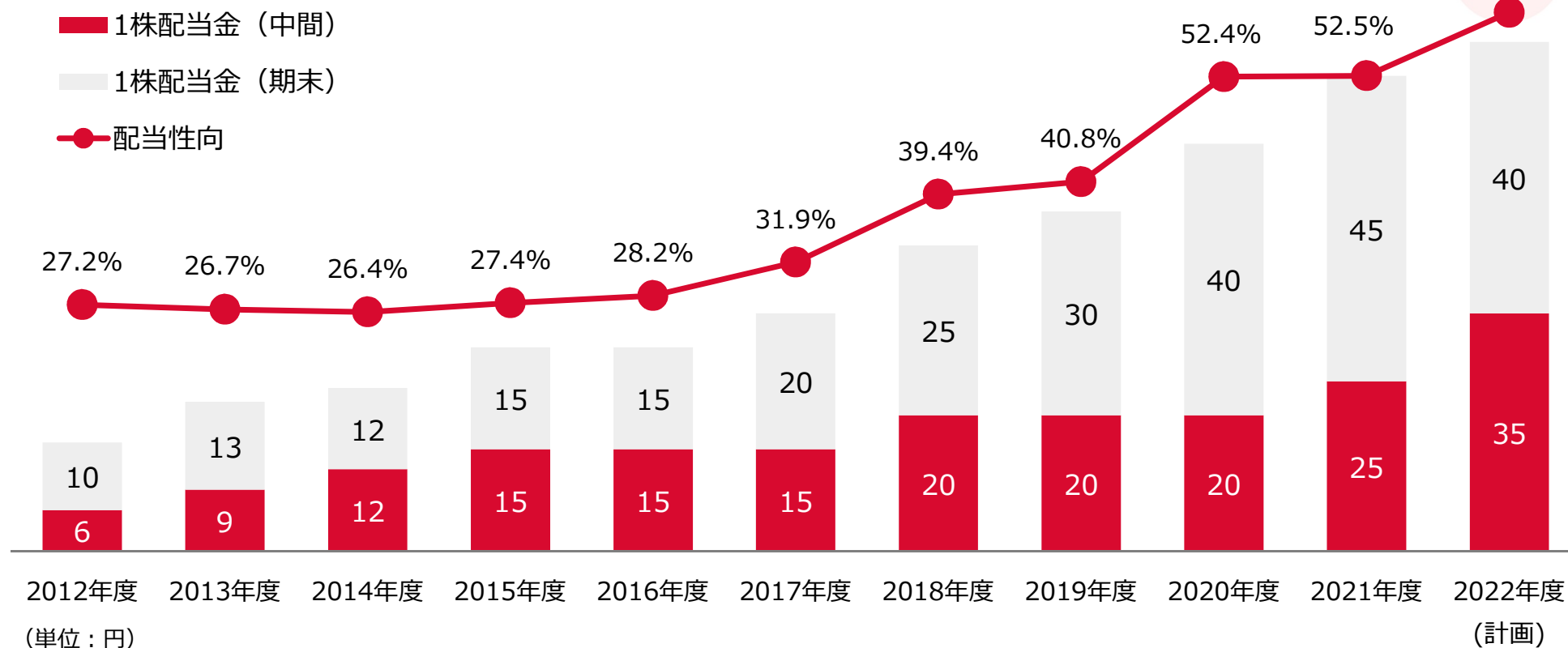
注：2022年12月末時点。2012年12月末時点の株価を100%とし、指数化して試算。（Otisのみ上場日である2020年4月を100%として試算）

出所：S&P Global Market Intelligence

株主還元重視の配当と配当性向の推移

- 当社は、これまで株主の皆様への還元を重視した施策を進めております。過去10年で、配当性向は、27.2%から52.5%に上昇し、配当金は、毎年増配を続け、16円から70円に増額しております
- 配当性向59.5%は、TOPIX構成銘柄の上位12.5%に入っております

TOP CLASS
TOPIX上位
12.5%
59.5%



4. 株主提案に対する当社見解

Oasisの主張

こうした現状を改善する為にOasisが選定した新しい社外取締役候補によって現社外取締役を入れ替え、インセンティブ設計も梃入れすべきである



当社見解

✓ 前提となる 各種指摘事項が 事実誤認

Oasisによる、当社の①事業、②ガバナンス、③競合企業対比株価等に対する各種指摘事項については、**いずれも事実誤認か、或いは、Oasisの恣意的な情報の歪曲**であることを、前セクションまでにおいて、ファクト・ベースでご説明させて頂きました

✓ 株主提案社外取締役候補者への 懸念／疑義

- 前述の通り、**Oasisの各種指摘事項における事実誤認や杜撰な株主提案のプロセスに鑑みると、ご提案頂いている社外取締役候補者の質や当社へのコミットメントに対する疑念を拭うことができません**
- また、Oasisの社外取締役候補者は、①**いずれも独立した上場企業における会社経営／経営戦略／ガバナンス整備・運用経験に乏しく、また、②潜在的なコンフリクトを有する虞があります**

✓ ガバナンスの スタンダードに反した インセンティブ提案

Oasisが提案している社外取締役向け株価連動型報酬は、社外取締役の独立性を危ぶませ、利益相反を生む可能性があることから、広く論じられているガバナンスのスタンダードに反したインセンティブ設計となっております

Oasisの各種指摘事項は事実誤認

FUJITEC

- Oasisの株主提案の前提となる指摘事項は、以下の通り、いずれも事実誤認であると当社は考えております

OASIS

FUJITEC

1

フジテックの事業戦略の策定／執行には問題があり、新中期経営計画も実現できない



当社認識と異なる

「有言実行」の実績
主要財務指標成長率で競合他社を圧倒
資本市場から高い評価を受けた新中計

2

フジテックのガバナンス体制に深刻な問題がある



当社認識と異なる

ガバナンス先進企業の自負
関連当事者取引の嫌疑に対する適切な対応
更なるガバナンス改革の推進

3

これらの結果、フジテックの株主は競合企業対比で十分なリターンを得ることができていない



当社認識と異なる

競合企業をTSRで凌駕
TOPIX構成銘柄トップクラスのTSR

Oasisへの不信感に起因した疑念

- 前述の通り、①Oasisの各種指摘事項がいずれもOasisの調査不足による事実誤認、或いは、Oasisの恣意的なミスリードであることに加え、②Oasisの他投資案件に照らした一貫しない主義／主張、また、③Oasisの杜撰な株主提案のプロセス／内容に鑑みると、当社としてはOasisに対して不信感を抱かざるを得ません
- こうした中で、Oasisから選定した社外取締役候補者については、現にOasisの株主提案直後に2名（深田氏、金子氏）辞退されていることから、その資質や当社に対するコミットメントについて疑念を持っております

Oasisの他投資案件における実績

1

Oasisの過去の株主提案における取締役選任議案等の実績を調査した所、**Oasisがダイバーシティを極めて重視する姿勢を取っている事例は見受けられません**

2

Oasisが取締役の派遣、並びに株式の過半数取得を行った**レーサムやサン電子においては、女性取締役が一人も取締役会にいない等、Oasisが主張される様なダイバーシティは担保されていない様に見受けられます**

Oasisのガバナンス等に係る主張には一貫性がない様に見受けられます

Oasisの本株主提案修正のプロセス

- | | |
|------------|--|
| 2022/12/ 1 | Oasisがキャンペーンサイトを開設し、「Protect Fujitec」（英語版）とする提案資料を公表 |
| 2022/12/ 5 | 当社がOasisからの臨時株主総会招集の請求に関する書面を受領 |
| 2022/12/22 | 第1次修正を受領
<ul style="list-style-type: none"> ・ 深田氏の辞退と嶋田氏の追加提案 ・ 請求者の変更（株式保有要件を満たさず） ・ 招集理由の大幅変更（候補者の経歴含む） |
| 2022/12/27 | 第2次修正を受領
<ul style="list-style-type: none"> ・ 招集の理由の修正 |
| 2022/12/31 | 第3次修正を受領
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金子氏が辞退（候補者提案人数を7名⇒6名に変更） ・ トーステン・ゲスナー氏の経歴修正 |
| 2023/ 1/ 4 | 第4次修正を受領
<ul style="list-style-type: none"> ・ 招集の理由の記載の修正 |

本株主提案のプロセスは杜撰であり、且つ、株主提案直後の候補者2名の辞退等を含め、資質やコミットメントが担保できるか疑念が残ります

※ 詳細は補足資料30頁をご参照下さい <https://www.fujitec.co.jp/announcement/8473>

Oasisの本株主提案プロセス



以下の通り、Oasisの本株主提案に係るプロセスは杜撰であり、
当社は本提案が真摯に当社の企業価値向上を目的として検討されたものとは到底思えません

1. 当初株主提案した7名の社外取締役候補の内、1名が1週間後に立候補を撤回し、急遽、別候補者を1名追加
2. 更に翌週には別の候補者1名の立候補を撤回し、社外取締役候補者の人数が6名となる
3. 当社より、経済産業省作成の「コーポレート・ガバナンス・システムに関する実務指針」に基づき、レファレンスレターを申し入れるものの現時点では当社取締役として適切な人物と判断できる回答なし

2022/12/1	<ul style="list-style-type: none"> • Oasis代理人弁護士（渥美坂井法律事務所 河村弁護士、以下「河村氏」）より、メールにて、臨時株主総会招集請求書の連絡があり、個別株主通知について手配済みとの連絡を受ける（臨時株主総会招集請求書は12月1日付） • Oasisがキャンペーンサイトの立ち上げ及び「Protect Fujitec」（英語版）と題する資料を公表
2022/12/5	<ul style="list-style-type: none"> • 当社がOasisからの臨時株主総会招集の請求に関する書面を受領
2022/12/7	<ul style="list-style-type: none"> • Oasisがキャンペーンサイトを更新し、「フジテックを守るために」（日本語版）を公表 • Oasis提案の社外取締役候補だった深田氏の記載が削除となる（英語版の提案資料にも同様の修正がなされており、差し替えが行われる）
2022/12/9	<ul style="list-style-type: none"> • 河村氏より、当社代理人弁護士にメールがあり、①請求者について、Oasis Investments II Master Fund Ltd.の請求は、請求要件の3%以上6か月間保有の要件を満たしていない為、Oasis Japan Strategic Fund のみの請求としたい、②深田氏については、立候補を撤回したい、③深田氏の代わりに、以前面談を行っていた候補者を候補とすべく本人と協議中（協議の結果実現しない場合には、取締役候補は6名とする予定）、④役員報酬制度について、上記深田氏の状況が確定次第、修正案を提示する、⑤以前送付した招集内容は未確定であるとの旨の連絡を受ける
2022/12/13	<ul style="list-style-type: none"> • 河村氏より、「諸般の事情により、Oasisによる臨時株主総会招集請求の修正事項について内容の固まるタイミングが今週金曜日または来週前半に延びることが見込まれている」との旨、メールで連絡を受ける
2022/12/14	<ul style="list-style-type: none"> • 当社より、社外取締役候補者インタビューの日程案、及びレファレンスレターに関して同意を依頼するメールをOasisに提示
2022/12/22	<ul style="list-style-type: none"> • 第1次修正を受領（①請求者の変更、②深田氏の辞退、③深田氏の代わりとなる嶋田氏の追加提案、④その他、招集理由の大幅な変更）
2022/12/26	<ul style="list-style-type: none"> • 12月20日付の招集請求書に誤記載とみられる内容が多分に見られた為、当社よりOasisに指摘を行う
2022/12/27	<ul style="list-style-type: none"> • 当社の指摘を受け、12月20日付の招集請求を撤回し新たに12月27日付の招集請求書（第2次修正、招集理由の変更）をメールで受領する
2022/12/31	<ul style="list-style-type: none"> • 第3次修正を受領（①金子氏の辞退（理由の記載なし）、②トーステン・ゲスナー氏の経歴修正）
2023/1/4	<ul style="list-style-type: none"> • 第4次修正を受領（第4号議案から第7号議案に係る招集の理由の記載の修正）

Oasisの当初請求からの大幅な修正内容

- 今回、Oasisから当社に対し臨時株主総会の招集請求後間もなく複数回にわたり株主総会の目的事項及び招集の理由の重大な変更が行われました
- 特に、社外取締役候補者の2名の辞退を含む変更については、何ら具体的な理由の説明がなされておらず、当社としてはOasisの臨時株主総会招集請求が真摯に検討されたものなのか甚だ疑問です

	当初	修正後
請求者	Oasis Investments II Master Fund Ltd. とOasis Japan Strategic Fund Ltd.が 共同	Oasis Japan Strategic Fund Ltd.のみ ※Oasis Japan Strategic Fund Ltd. の請求が、会社法297条1項及び305条1項に定める要件（本請求のために必要な議決権数に相当する株式を6ヶ月間保有すること）を満たしていないことが判明した為
社外取締役候補者 (第3号議案)	<p>候補者数7名</p> <ul style="list-style-type: none"> 浅見 明彦 深田 しおり トーステン・ゲスナー クラーク・グラニンジャー 金子 裕子 海野 薫 ライアン・ウィルソン 	<p>候補者数6名（当初7名-1名+1名-1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 浅見 明彦 トーステン・ゲスナー クラーク・グラニンジャー 海野 薫 ライアン・ウィルソン 嶋田 亜子 新規 深田 しおり 辞退（理由不明） 金子 裕子 辞退（理由不明）
報酬議案 (第5／6号議案)	<p>VII.a. 新たな社外取締役 責務を全うするために</p> <ul style="list-style-type: none"> フジテックのガバナンスの弱点を解消するため、エグゼクティブサートナー会社の協力を得て、<u>5ヶ月以上にわたる大規模な指名プロセスを経て</u>、オアシスは社外取締役のみ（プロフィールは添付資料7を参照）を提案します。 現職の社内取締役に変更はなく、日常業務における安定性と経営の継続性は確保されます。 提案された社外取締役は、取締役会の独立性、経験、スキルおよび多様性の水準を現状から飛躍的に強化します。 新任の社外取締役は、一丸となって働き、フジテックの取締役会を飛躍的に向上させ、あらゆる面でガバナンスを強化します。 <p><Oasis : 2022年12月公表資料 (P.45) ></p>	<p>Oasisの公表した資料には「5ヶ月以上にわたる大規模な指名プロセスを経て」との記載があるにも関わらず、社外取締役候補者が請求後間もなく具体的な理由も明かされないままに2名辞退となっており、最終的な候補者6名が真に当社の企業価値向上に繋がる提案となっているかは甚だ疑問です</p>
	付与対象者が Oasis提案の社外取締役候補者のみ ※現任の社外取締役への付与はなし	付与対象者を 「社外取締役」に修正 ※現任の社外取締役も付与対象

Oasisの社外取締役候補に係る当社見解

- Oasisから提案頂いている社外取締役候補の皆様については、①独立した上場企業における会社経営／経営戦略／ガバナンス整備・運用経験の乏しさや、②当社の社外取締役としての潜在的なコンフリクトの可能性がある為、当社としましては全ての候補についての選任議案に反対致します
- 各候補者の反対理由の詳細については、補足資料の33頁～35頁をご参照ください
(<https://www.fujitec.co.jp/announcement/8473>)

候補者	主な経歴	社外取締役としての懸念	①独立した上場企業における会社経営／経営戦略／ガバナンス整備・運用経験	②潜在的なコンフリクト
浅見明彦氏	<ul style="list-style-type: none"> GS、ドイツ証券、パークレイズ（投資銀行） 東京大学 顧問（財務企画室） 東京大学協創プラットフォーム開発（VC）のパートナー兼顧問 ソフトバンク株式会社の顧問 	<ul style="list-style-type: none"> 上場会社における企業経営の経験不足 自身が代表を勤める法人及び個人でも、複数の訴訟事案を抱えているにも関わらず、「訴訟・紛争を抱えている事実は無い」と回答 過去勤務先に対し訴訟を提訴した事実がありながら、「円満退社」と回答 	×	
Torsten Gessner氏	<ul style="list-style-type: none"> Otisの後、ThyssenKrupplにて北米法人の代表取締役会長兼CEO 現在はコンサルタント（自営）として、ファンドにアドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> 上場会社における企業経営の経験不足 ファンド等へのコンサルティングを行っており、中立的立場ではない可能性がある 	×	×
Clark Graninger氏	<ul style="list-style-type: none"> リーマンブラザーズ（投資銀行） 新生銀行（投資ファンド傘下当時）、アプラス（新生銀行子会社）、あおぞら銀行（投資ファンド傘下当時）で役員を歴任 	<ul style="list-style-type: none"> 新生銀行の副社長の際に、子会社のガバナンス違反（行政処分）により報酬カットを受けている* 	×	
海野薫氏	<ul style="list-style-type: none"> Davis Polk & WardwellやJones Day, DLA Piper（外国法律事務所、弁護士） 	<ul style="list-style-type: none"> 上場会社における企業経営の経験不足 当社現任社外取締役とのスキルの重複 	×	
Ryan Wilson氏	<ul style="list-style-type: none"> Schindlerの後、ThyssenKrupp Elevatorのカナダ法人の社長兼CEO コンサルタント（自営）として、ファンドにアドバイス カナダの中堅非上場企業のCEO 	<ul style="list-style-type: none"> 上場会社における企業経営の経験不足 グローバルな知見に欠けているとみられる（カナダのみでしか勤務経験なし） ファンド等へのコンサルティングを行っており、中立的立場ではない可能性がある 	×	×
嶋田亜子氏	<ul style="list-style-type: none"> Hancock Rothert & Bunshoft等（弁護士） 現在はUshio America, Inc.のヴァイス・プレジデント、ジェネラルカウンセル及びコーポレートセクレタリーを務める 	<ul style="list-style-type: none"> 上場会社における企業経営の経験不足 	×	
深田しおり氏		辞退		
金子裕子氏		辞退		

*注: <https://www.fsa.go.jp/news/newsj/17/ginkou/20060426-1.html>

ガバナンス向上に資さない報酬提案

FUJITEC

以下の通り、Oasisの報酬に関する株主提案は、企業価値を危ぶませる虞があり、当社は**全ての議案に反対**します

OASIS

第4号議案
社外取締役の個人別の
基本報酬額決定の件

第5号議案
社外取締役に対する
事後交付型株式報酬の付与の件

第6号議案
社外取締役に対する
株価条件付事後交付型株式報酬
の付与の件

第7号議案
取締役（社外取締役を除く）
に対する事後交付型株式報酬
の付与の件

FUJITEC

- Oasis候補者のみが対象
- 現任社外取締役へ適用されず、社外取締役の間で報酬が異なる状態となる懸念

- 社外取締役に対して、株価の上昇のみを企図する強烈なインセンティブが働く
- ガバナンスのスタンダードに反した設計

- 社外取締役に対して、株価の上昇のみを企図する強烈なインセンティブが働く
- 業績と一切関係ない株価条件のみのため、一部投資家の大量の買い注文等により意図的に条件成就が可能となる可能性があり、市場の健全性を害するおそれがある

- 既に一般的な業務執行取締役よりも高水準かつ適切な基準の報酬を付与している
- 第6号議案と併せると業務執行取締役と社外取締役の報酬条件が同一となり、社外取締役には執行取締役に同調するインセンティブが生じ、独立性が害され、監督機能が働かない懸念が高まる

企業価値を
危ぶませる
虞があり

反対



なお、第1号議案候補者および現任の社外取締役、業務執行取締役は、仮に第5号議案から第7号議案が可決された場合でも、当該報酬を受け取る意思がない旨を確認

ガバナンスのスタンダードに反したインセンティブ設計の提案

- Oasisが提案している社外取締役向け株価連動型報酬は、社外取締役の独立性を危ぶませ、本来求められる「取締役を監督する」という役割と相反する可能性があることから、ガバナンスのスタンダードに反したインセンティブ設計となっております
- 実際に、国内大手機関投資家の議決権行使基準において、今般Oasisが提案している様な社外取締役を対象としたインセンティブ型報酬については、反対する意見が多く見られます
- 当社は、本提案が当社のガバナンス体制を歪め、企業価値向上を危ぶませる虞がある為、反対致します



付与対象者に、社外取締役、監査等委員である取締役、監査役、社外監査役、または業績向上との直接的な関連性が認められない者が含まれる場合、反対



付与対象者に、社外取締役及び監査役（監査等委員である取締役を含む）が含まれる場合は原則として反対





5. まとめ

再掲：当社がOasisの株主提案に反対する理由

FUJITEC

OASIS

FUJITEC

1 認識相違	フジテックの事業戦略の策定／執行には問題があり、 新中期経営計画も実現できない	 当社認識と異なる
2 認識相違	フジテックのガバナンス体制に深刻な問題がある	 当社認識と異なる
3 認識相違	これらの結果、フジテックの株主は競合企業対比で 十分なリターンを得ることができていない	 当社認識と異なる
4 反対	こうした現状を改善する為にOasisが選定した新しい社外取締役候補 によって現社外取締役を入れ替え、インセンティブ設計も挺入れすべきである	 懸念／疑義あり

当社はOasisの株主提案にはいずれも反対しております

株主の皆様には是非冷静なご判断をお願いいたく存じます

	議案	内容	当社意見
1	会社提案 第1号議案 社外取締役2名選任の件	候補者2名を社外取締役として選任 ・ 岩崎 二郎 ・ 海部 美知	賛成
2	株主提案 第2号議案 社外取締役6名解任の件	現任社外取締役6名全員の解任 ・ 杉田 伸樹 ・ 山添 茂 ・ 遠藤 邦夫	反対
3	株主提案 第3号議案 社外取締役6名選任の件	候補者6名を社外取締役として選任 ・ 浅見 明彦 ・ トーステン・ゲスナー (Torsten Gessner) ・ クラーク・グラニンジャー (Clark Graninger) ・ 海野 薫 ・ ライアン・ウィルソン (Ryan Wilson)	反対
4	株主提案 第4号議案 社外取締役の個人別の基本報酬額決定の件	基本報酬を1,250万円とする	反対
5	株主提案 第5号議案 社外取締役に対する事後交付型株式報酬の付与の件	株価条件を設定しない事後交付型株式報酬を付与する	反対
6	株主提案 第6号議案 社外取締役に対する株価条件付事後交付型株式報酬の付与の件	株価条件付事後交付型株式報酬を付与する	反対
7	株主提案 第7号議案 取締役（社外取締役を除く）に対する株価条件付事後交付型株式報酬の付与の件	株価条件付事後交付型株式報酬を付与する	反対

本資料は、2023年1月20日に公表した株主提案に対する当社取締役会の意見について株主の皆様にご説明差し上げるためのものであって、同日公表した臨時株主総会に付議される議案について当社又は第三者に議決権の行使を代理させることを勧誘するものではありません。

本資料に掲載された当社の情報以外の情報については、公開情報に基づき作成しておりますが、当社は、その正確性、有効性又は完全性を保証するものではなく、これらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。

既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2023年1月20日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

FUJITEC